

MADONNA

St.Mary's College Campus Letter

聖マリア学院大学キャンパスレター [マドンナ]
Vol.18

特集

開学10周年記念



シスター・カリスタ・ロイ博士と
ジャクリーン・フォーセット博士を
お招きして

- ▶ 開学10周年テーマ「神のいつくしみと愛」
- ▶ 「ロイ・アカデミアホール」オープニングセレモニー
- ▶ 新図書館オープン

ミゼリコルディアの鐘

いよいよ、待望の図書館棟が竣工いたしました。図書館正面の塔にはキリシタン時代に長崎にあったサンチャゴ病院の鐘（1612年）をモデルとした鐘を、「ミゼリコルディアの鐘」として作成し設置することにしました。ミゼリコルディアとは、現代的には「慈しみの心」という意味です。

医師であり修道士であったルイス・デ・アルメイダが、豊後（大分）に府内病院を開設（1557年）した際に、キリシタン信徒もミゼリコルディア（慈悲の組）という組織を立ち上げ、混乱して貧しい戦国の世の中にも拘わらず、12人の若者は慈しみの心をもって貧困の者や病者を収容し看護を行いました。我が国での最初の組織的な看護の実践であったとキリシタン研究家の片岡弥吉先生は述べておられます。このミゼリコルディアの組織は、キリシタンが居るところ各地に形成されましたが、アルメイダが布教に尽くし、葦の野原から急発展した長崎においても開設され、最も充実した活動として華開きました。「長崎においては、堺の金細工商人であった日本人キ

リシタン（洗礼名：ジエスチノ）が長崎に来てミゼリコルディアの組を作り、その夫人（洗礼名：ジュスタ）が12人の夫人を誘って隣人愛の仕事に奉仕した。男性の手の及ばない病人の介抱、身の回りの世話など組織的看護婦活動をしていたと思われる。アルメイダが大分で始めた組織的看護夫活動と共に、日本看護史に記録されるべきであろう」と片岡先生は再び述べられています。

1603年、この長崎のミゼリコルディア付属の病院としてサンチャゴ病院が設立されました。誰からも見捨てられたハンセン病の患者や普通の病人をも収容していました。市内の他の会や教会とは別に、沢山の浄財が絶えずこの二つの施設に集まって来たそうです。1612年、サンチャゴ病院増築の際に、「San Tiago Hospital 1612」と銘のあるベル状の銅鐘が作られました。大分県竹田市に現存し、国指定重要文化財「銅鐘」（サンチャゴの鐘）として登録されています。

しかしながら、1614年、江戸幕府によたということがいえる。カトリックが入って一世代過ぎたか過ぎないかという時期に、功利的な伝統から離れた新たな日本人が出現していること驚かざるをえない。長崎には、慈恵院立の医療設備のほかに、教会立のサンチャゴ病院があった。これらのにぎわいは、この種の設備のまったくなかった当時の日本において、壮大な偉観であったにちがいない」と述べています。

アルメイダの豊後の病院で、キリシタンの日本人信徒により生まれ、長崎に華開いたミゼリコルディアの附属のサンチャゴ病院は、同じカトリック信徒による私共の聖マリア病院の設立理念や本学の教育理念と一致し、これを継承するに相応しい鐘がサンチャゴ病院の鐘だと思えます。新たにミゼリコルディアの鐘として、慈しみの心と共に、永遠に鐘の音を皆様にお届けしたいと思います。

著名な小説家である司馬遼太郎氏が、紀行文「街道をゆく」の「肥前の諸街道」の項にて、「この長崎における慈恵院の存在とそこで働いていた一群の日本人たちは、社会奉仕という精神や習慣はほとんどなかった日本の伝統のなかであって、破天荒なことをしてい



学長 井手 三郎

聖マリア学院大学の教育理念

聖マリア学院大学は、「カトリックの愛の精神」に基づく教育・研究を行って、豊かな人間性と深い教養を具え、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材を育成することを目的としています。



聖マリア学院大学の教育の特色

- 「人間の尊厳・生命を尊重する倫理、生命倫理教育」による倫理的判断能力／専門職としてのケアリング／ヒューマンケアの実践能力の育成
- シスター・カリスト・ロイ博士提唱の「ロイ適応看護モデル」に基づく科学的思考と問題解決能力の育成
- 聖マリア病院とともに長年の国際保健医療協力を連携して実践している「国際看護学」の教育

目次

CONTENTS

1 巻頭言

ミゼリコルディアの鐘

3 特集

開学10周年記念

7 CAMPUS TOPICS

- フィールドスタディー／災害支援
- フランススコ・ボランティアキャンプ
- JICA青年研修事業
- 学院祭
- 召命のつどい

12 CIRCLE INFORMATION

サークルのご紹介

13 お知らせ

- 教育懇談会／公開講座のご報告
- 財務状況等の公開

マドンナ

MADONNA

Vol. 18



聖マリア学院大学 開学10周年記念 学術講演会

Misericordia et Caritas いつくしみと愛

【日程】 平成29年9月2日(土) 13:00~

【会場】 久留米シティプラザ3階 久留米座(福岡県久留米市六ツ門町)



講師：シスター・カリスタ・ロイ博士

Sr. Callista Roy (RN, PHD, FAAN)

米国ボストン大学教授、聖マリア学院大学客員教授
本学の看護教育の基盤としている

「ロイ適応看護モデル」の提唱者

【講演内容】 「看護理論におけるいつくしみと愛」

Philosophical and Spiritual Basis of Mercy and Love in Nursing



講師：ジャクリーン・フォーセット博士

Dr. Jacqueline Fawcett (RN, PHD, FAAN)

米国マサチューセッツ大学ボストン校教授
看護モデルの実践への適用、看護の質改善プロジェクト、
看護研究について探求する看護学者

【講演内容】 「ケアリング理論におけるいつくしみと愛」

Misericordia et Caritas : Metaparadigmatic, Philosophical,
Conceptual, Theoretical, and Empirical Considerations



会場の久留米座は、参加者でいっぱい



講演会終了後、ステージ上で学生たちと

神のいつくしみと愛

学院長 井手 信



聖マリア学院大学開学10周年にあたり年間テーマを「いつくしみと愛(Misericordia et Caritas)」と致しました。神の「愛」を表す言葉「いつくしみ」と「あわれみ」misericordiaはヘブライ語のラハミーム、ラテン語のmisericorsに由来する言葉です。ラハミームは「胎」や「はらわた」を意味する言葉から派生したもので、母親が自分のおなかを痛めた子どもをいつくしむ情をいいます。神様の、誰も排除されることがない無限の「あわ

れみ」いつくしみは特に苦しむ人、悲しむ人、貧しい人に対していつも注がれています。2015年12月8日フランシスコ教皇は「いつくしみの特別聖年」を定め、いつくしみを証しする教会の使命を強調されました。教皇は「出向いていく教会」教会は野戦病院のようであれ」といつも述べておられます。本学の設立母体であり「カトリックの愛の精神」を設立理念として掲げる聖マリア病院の創設期も野戦病院のようであ

た。救急車のなかった時代はジープが苦しむ方々のもとへと走りまわりました。病院がいつも苦しむ人と共にあるようにと24時間稼働の救急外来が開設され、泣き叫ぶ子どもを抱いた地域の方々は病院の正面玄関の上に掲げられた十字架を目指し遠路からも来院されました。この理念は看護教育にも継承され、専門学校、短期大学を経て聖マリア学院は大学設置から10年を経過致しました。新しい図書館には理念の象徴と

してミゼリコルディアの鐘と命名された鐘楼と聖マリア病院(旧)新生児センターのロビーに安置されていた聖母子像、正面玄関の聖マリアの連祷が刻まれた銅版が移設されています。神のいつくしみmisericordiaを知り、はらわたするほどの愛を実践する看護師の養成が本学の目指すカトリックの愛の精神に基づく看護教育です。次の10年が始まります。さらに愛の実践caritasが深まりますようにと祈りながら。

シスター・カリスタ・ロイ博士とジャクリーン・フォーセット博士をお招きして

2017年9月2日、シスター・カリスタ・ロイ博士(Sr. Callista Roy)と

ジャクリーン・フォーセット博士(Dr. Jacqueline Fawcett)をお招きし

開学10周年記念学術講演会「Misericordia et Caritas いつくしみと愛」看護を語る」を久留米シティプラザ3階の久留米座で開催いたしました。

開学10周年のテーマは、「Misericordia et Caritas いつくしみと愛」。本テーマに基づいて、世界的に著名な看護理論の先生お二人にそれぞれご講演いただきました。会場は、本学学生、教職員だけでなく、聖マリアグループの関係者や

多くの一般の参加者で溢れており、ロイ博士とフォーセット博士に対する関心の高さがうかがえました。学生たちは、講演後に直接お二人の先生方とふれあい、言葉を交わし、交流を深める貴重な機会を得ることができました。聖マリア学院大学では、この「いつくしみと愛」の精神を引き続き大切にしつつ、教育活動を行ってまいります。皆様方の温かい応援とご支援をお願い申し上げます。

New Library【新図書館オープン】



ミゼリコルディアの鐘が設置されています



ゆったりと閲覧できる充実のスペース

コンセプトが異なります。1階はラーニングコモンズ、2階はクワイエットフロア、3階はサイレントフロアとなっています。これは、学生から高い評価を得ています。図書の内容可能冊数は約10万冊、閲覧席数は約200席です。開館から現在に至るまで連日約150



2017年10月2日にSt. Mary's Libraryが開館いたしました。誰もが待ちに待った待望の図書館です。図書館の外観にはキリシタン時代に長崎にあったサンチャゴ病院の鐘をモデルに作成され、ミゼリコルディアの鐘と命名された鐘が設置されました。

ミゼリコルディアとは、「いつくしみ深さ」や「慈愛」という意味であり、ケアの本質であると言われています。これは聖マリア学院大学で看護学を学ぶ学生や教育に携わる教職員、聖マリア病院で医療を実践する職員にとって大変意義深い名称となりました。

聖マリア学院大学はいつくしみ深い教育の実践を、そして聖マリア病院はいつくしみ深い医療の実践を行うことを設立当初より目指してきました。ゆえにミゼリコルディアの鐘はSt. Mary's Libraryのシンボルと言えます。ミゼリコルディアの鐘は毎日9時、12時、18時に心地よい音色

を私達に届けてくれます。かつ、それではSt. Mary's Libraryの具体的な役割と機能についてご紹介いたします。大学における図書館の役割は、学修支援、教育活動、研究活動の支援にあります。ここ数年は学生が自ら学ぶことへの支援が図書館に求められています。St. Mary's Libraryはこの要求を満たすべく学生が自ら学ぶ場、環境がデザインされています。

ミゼリコルディアの鐘がなる St. Mary's Library

聖マリア学院大学 図書館 館長 日高 艶子

Roy Academia Hall【ロイ・アカデミアホール】



ホール前でロイ先生、フォーセット先生、学院長、学長が一緒に

2017年9月4日、大学院棟である7号館1階に、シスター・カリスタ・ロイ博士(Sr. Callista Roy)のお名前をいただいた「ロイ・アカデミアホール」が新設され、オープニングセレモニーが行われました。



聖マリア学院大学開学10周年を記念し、7号館1階に新設

「ロイ・アカデミアホール」オープニングセレモニー

フランシスコ・ボランティアキャンプ



茶畑やベーカリー、さをり織り工房、被災地などにおいて、さまざまなボランティアを経験

平成28年度より、韓国のカトリック大学連携組織が主催し、アジア諸国におけるカトリック系大学間交流事業として、フランシスコ・ボランティアキャンプが開催されています。
当事業は、奉仕活動を通じた人格形成を趣旨としてフランシスコ教皇のメッセージに倣い、実

アジア諸国、カトリック系大学間の学生交流プログラムの様子

施される国際ボランティアプログラムで、昨年度の韓国での第1回開催に続き、本年度は日本（長崎）において、平成29年8月16～23日の期間、韓国、台湾、タイ、そして日本のカトリック系各大学より、学生、総長・学長並びに関係スタッフが参加して開催されました。

また、バチカンより教皇庁福音宣教省次官 Salvatore Talarico 大司教をお迎えし、長



グループごとに話し合い目標をたてました



4カ国で17大学、計49名の学生が参加

フィールドスタディー



カノッサ大学の学生さんたちと



患者さんたちと一緒に健康体操

フィールドスタディーで訪れたフィリピン共和国。姉妹校カノッサ大学の学生さんと先生方やシスター、また実習病院の看護師さんに見守られ、多くの体験を

させていただきましました。フィリピンの方々は、たとえどんなに経済的に貧しくても、いつも笑顔で、そして「豊かに生きること」をやさしく教えてくださいます。

フィリピン、出会いと発見の日々

災害支援

平成29年7月5日の九州北部地域の集中豪雨により、朝倉市、東峰村、日田市など広範囲にわたり土砂崩れなどの大規模災害が発生しました。
本学では、7月30日から8月27日までの計4回にわたり、大教職員及び学生、またグループ関連機関、聖マリアヘルスケアセンター、平和の聖母からなるメンバー（延べ38名）が、



真夏の土砂の除去作業は熱中症との闘い

九州北部豪雨（東峰村）災害支援へ

救護班と土砂災害支援として東峰村の災害ボランティアに参加しました。本学は建学の精神に基づく社会貢献、地域連携への取り組みを推進・支援しており、学生・教職員の各種ボランティア活動もその一環として、これからも続けていきます。

学院祭



「マリア祭」当日の様子。たくさんの方にお越しいただきました



平成29年11月11日(土)に学院祭「マリア祭」が開催されました。
今回のテーマは「伝う」。
「日頃の感謝の気持ちを伝えたい」、「学生のパワーを伝えたい」と

い、「と「伝う」というキーワードに、学生はいろいろな意味を込めていたようです。当日、キャンパス内は模擬店や企画ブース等が多数設けられ、お越しになった方々で溢れていました。

第12回 聖マリア学院大学
「マリア祭」開催



妊婦さんを疑似体験



食べ物を提供する模擬店もたくさん出店しました



ヨガで心も体もリラックス



ハンドマッサージで癒し効果

JICA(独立行政法人国際協力機構)
青年研修事業



久留米市役所を表敬訪問

アフリカ諸国より助産師、
看護師をお迎えして

聖マリア学院大学では、JICAからの委託事業として平成29年11月8日〜20日、アフリカ6カ国(ブルンジ、カメルーン、チャド、コートジボワール、モロッコ、セネガル)から助産師・看護師、合計11名をお迎えし、「青年

研修アフリカ(仏語)母子保健実施管理コース」を行いました。世界の母子保健、特に妊産婦死亡率が高いのがアフリカ諸国です。今回の研修員は、将来、それぞれの国の母子保健を改善していく中心となる人材です。研修員は、日本での母子保健の歴史や少子化が進む日本における母子保健の現状、周産期医療の現状などを熱心に学修しました。また帰国後、日本で学んだことをもとに、自身の国の母子保健状況を改善するためにそれぞれの職場において実施可能なプラン作成も行いました。
民族も母国語も異なる研修員



熊本赤十字病院の救急室にて



が、共通言語であるフランス語を駆使して、「自国の母子保健の状況を改善する」という目的のため、非常に熱心に学び合った13日間でした。



ナーシング・キャリアカフェにてカメルーンの研修員が自身の国とその保健事情について発表しました

CIRCLE

INFORMATION

サークルのご紹介

看護学部の学生は、看護師になるための専門的な学修、試験、実習などで忙しい日々を送っています。でも、4年間という貴重な学生生活を満喫したい！有意義にしたい！ということから数々のサークルが活動を行い、スポーツや課外活動を楽しんでいます。勉強だけでは得られない、プラスαの経験や友達づくりの貴重な場にもなっているようです。

St.マリアーズ(野球部)

他大学や社会人チームと試合をしています。



バレーボール

サークル内でチーム分けをし、試合感覚でゲームを楽しんでいます♪



Marian Blue

救急救命処置普及を目的として、各イベント等で講習を行います。



テニス

サークル内でチーム分けをし、試合感覚でゲームを楽しんでいます♪



ピアエデュケーション

性や愛、命の大切さについて考えるサークル。妊娠・出産、AIDSに関する出前授業等に参加します。



BB

球技(バスケットボールやドッジボール、バレーボールなど)を楽しんでいます♪



手話

手話の練習をして、施設の夏祭りなどで披露します。



ふいりあ

ボランティアサークル。災害支援を目的としたボランティア活動等に参加します。



剣道

剣道を通じて礼節、忍耐力を養いながら稽古に励みます。地域の大会にも出場します。



バドミントン

楽しむ気持ちを大切に全力で練習に取り組んでいます。地域の大会にも出場します。



召命のつどい



平成29年10月14日(土)、聖マリア病院構内の雪の聖母聖堂において、「召命のつどい」が執り行われ、看護学部1年生(110名)が式に臨みました。聖堂の厳かな空気のなかで、学生たちは司祭からお祝いのご褒を贈ら

看護専門職としての歩みの決意を新たに

れました。そして、ひとりひとりがキャンドルに火を灯しながら、これから始まる看護実習や、看護職者としての理想の将来像に向かって、決意新たにその一歩を踏み出しました。



「召命のつどい」とは・・・

本学の前身、聖マリア短期大学における「祝帽式(戴帽式)」は、その伝統を継承しつつ、現在では「召命のつどい」と名称を改め執り行われています。本学の建学の精神「カトリックの愛の精神」を思い起こしながら、人として、また看護専門職者として、高い倫理性と責任感をもって行動することができるよう、神のお導きを願う祈りのひとときを「召命のつどい」と名付けました。



ご父兄やご来賓、教職員に見守られる中、110の小さな光が灯されました



● 教育懇談会



日程：平成29年11月11日(土)
会場：7号館1階 ロイ・アカデミアホール

在学生(学部2・3年生)のご家族、保護者の皆様を対象とした教育懇談会を開催いたしました。

日頃、ご来学機会の少ない皆様へ、本学の教育や研究また社会貢献についての取り組みをご報告するとともに、学生個々の修学状況について懇談することを主な目的とし、平成28年度より開催しているものです。

当日は学院祭が行われており、懇談会終了後は構内をご観覧いただき、日々の学生生活の雰囲気も感じていただけたと思います。

次年度も同時期の開催を予定とし、対象学年のご家族へご案内を差し上げることといたしますので、多数の皆様の参加をお待ちしております。

● 財務状況等の公開

(平成28年度決算の概要)

法令に基づき、大学等の設置者である学校法人は、当該事業年度における決算関係書類及び事業報告書を作成し、これを広く公開することが求められています。本学においては、理事会・評議員会での承認を経て、財務状況並びに事業報告に関する情報公開を、順次、ホームページに掲載することとしております。本誌では、誌面の都合上、財務状況の概要を掲出します。



学校法人聖マリア学院 平成28年度決算〔平成28年4月1日～平成29年3月31日〕

「貸借対照表」の概要

貸借対照表			
平成29年3月31日現在(単位:千円)			
科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	4,393,936	4,350,887	43,049
流動資産	1,925,163	1,819,508	105,655
資産の部合計	6,319,099	6,170,395	148,704
負債の部			
固定負債	188,853	182,751	6,102
流動負債	176,396	182,040	△5,644
負債の部合計	365,249	364,791	458
純資産の部			
基本金	6,179,160	6,136,943	42,217
第1号基本金	5,525,960	5,310,743	215,217
第2号基本金	480,000	660,000	△180,000
第3号基本金	101,200	101,200	0
第4号基本金	72,000	65,000	7,000
繰越収支差額	△225,310	△331,339	106,029
純資産の部合計	5,953,850	5,805,604	148,246
負債及び純資産の部合計	6,319,099	6,170,395	148,704

「事業活動収支計算書」の概要

事業活動収支計算書			
(単位:千円)			
収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
教育活動収入	1,025,146	教育活動支出	883,537
教育活動外収入	6,437	教育活動外支出	0
特別収入	963	特別支出	763
		予備費	-----
事業活動収入	1,032,546	事業活動支出	884,300
		基本金組入前当年度収支差額	148,246
		基本金組入額合計	△42,217
		当年度収支差額	106,029
		前年度繰越収支差額	△331,339
		基本金取崩額	0
		翌年度繰越収支差額	△225,310

学校法人会計について

学校法人は、公益性をもった教育研究の実践主体として、学校の経営を行うことを、その目的としておりますので、一般企業のように営利を活動目的とする法人ではありません。よって、人材育成を含めた教育研究活動の成果を、社会に還元させる義務を負っています。

学校の経営に伴う経理処理については、学校法人会計基準(文部科学省令)により定められており、主要な財務計算書類として「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」及び「貸借対照表」の作成が義務付けられています。

■資金収支計算書
前年度繰越支払資金1,588,271千円を合わせた収入は、3,025,322千円となり、諸々の支出を差し引き、次年度繰越支払資金として、1,903,697千円を計上いたしました。

■事業活動収支計算書(※平成27年度より新様式)
事業活動収入計(従前の帰属収入)が、1,032,546千円、事業活動支出計(従前の消費支出)が、884,300千円となり、単年度の収支として、148,246千円となりました。基本金組入額(学校法人として、教育研究内容の将来的維持・充実に必要な資金を継続的に保持するための資金)として、42,217千円を計上し、結果、当年度収支差額として、106,029千円となりました。

■貸借対照表
資産の部は、流動資産等の増加により前年度比148,704千円増の6,319,099千円となりました。また、負債の部は、前年度比458千円増の365,249千円となりました。その結果、純資産が前年度比148,246千円増の5,953,850千円となっております。

「資金収支計算書」の概要

資金収支計算書			
(単位:千円)			
収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
学生納付金収入	798,911	人件費支出	529,788
手数料収入	11,900	教育研究経費支出	179,028
寄付金収入	30,200	管理経費支出	68,564
補助金収入	113,768	施設関係支出	211,059
資産売却収入	200,000	設備関係支出	8,680
付随事業・収益事業収入	30,366	資産運用支出	122,100
受取利息・配当金収入	6,437	その他の支出	31,609
雑収入	35,336		
前受金収入	136,636	予備費	-----
その他の収入	245,394		
資金収入調整勘定	△171,897	資金支出調整勘定	△29,203
前年度繰越支払資金	1,588,271	次年度繰越支払資金	1,903,697
収入の部合計	3,025,322	支出の部合計	3,025,322

● 公開講座のご報告

平成29年度の公開講座は全6回行われました。

● 第1回「よりよく生きる -地域とともに生きるを支援-」
10月7日(土)

講師 樋口千恵子氏(NPO法人たんがく理事長)



● 第2回「よりよく生きる -よりよく支える医療-」
11月11日(土)

講師 中島成子氏(聖マリア病院看護部長)・橋口ちどり氏(聖マリア病院副看護部長)



● 第3回「よりよく生きる -脳卒中予防10ヶ条-」
12月2日(土)

講師 小浜さつき氏(聖マリア学院大学講師)



● 第4回「子育て世代をよりよく生きる」
1月13日(土)

講師 浅野美智留氏(聖マリア学院大学准教授)



● 第5回「よりよく生きる -認知症を予防しよう-」
2月3日(土)

講師 鮎川春美氏(聖マリア学院大学講師)



● 第6回「生と死 -安らぎと希望のうちに生きる-」
2月10日(土)

講師 森山信三師(福岡コレジオ院長)



今後の開催内容についてはホームページでご案内します!

<http://www.st-mary.ac.jp/guide/open-lecture/>



教務課・学生課からのお知らせ

在学生、並びにご家族のみなさまへ

◎進級・留年、成績状況、履修状況等の通知について

在学生並びにご家族の方へ対し、所定の時期において、進級・留年の決定や、成績状況、科目履修状況等の通知をお届けしています。学部等の課程別に対象や時期は異なりますが、ご家庭におかれましても、日頃より学校生活に関するお話の機会を持っていただき、側面からの学習支援に、ご理解とご協力をお願いいたします。

◎進級・卒業要件、履修要件にご留意ください

授業科目の履修に際しては、年度始めの履修登録時における手続き漏れがないよう、学生便覧を熟読し、卒業までに必要となる授業科目(必修科目・選択科目)、単位数について理解した上で、各自の責任において計画的に履修しましょう。

- *授業科目に関しては、各々の開講年次や、1年間に登録できる単位数の上限が定められています。
- *上級学年に進級するには進級要件を満たす必要があります。
- *基盤臨床系科目や、各論実習科目を受講するためには各々の科目を履修するための要件(例:科目Bを履修するためには科目Aの試験に合格していることが必要、など)を満たす必要があります。

◎「保健師」国家試験(選択制)受験希望者の単位修得について

～対象:看護学部2012年度以降の入学生～
保健師国家試験の受験資格を得るためには、卒業に必要な単位数に加え、3年次以降に開講される“地域看護学”に関する所定の科目の単位を修得する必要があります。履修者は学内選考により決定することとし、履修申し込み手続きは、2年次後期に行う予定です。保健師国家試験を受験希望の方は、手続き漏れがないよう、ご留意ください。

*平成29年度履修者より課程履修費80,000円が必要になります。



本学の奨学金制度について(ご案内)

本学では大学独自の奨学金について以下の4つの制度があります。詳細につきましては学生課までお問い合わせください。

☎ 0942-50-0222

聖マリア学院大学 特待奨学金

金額:50万円または20万円
返済義務:なし
採用人数:若干名

聖マリア学院大学 子弟等奨学金

金額:入学金相当額の半額
返済義務:なし

聖マリア学院大学 緊急時奨学金

金額:当該学期の授業料
および施設維持費相当額を上限
支給:1名につき2回まで 採用人数:若干名

雪の聖母会聖マリア病院 聖マリア奨学金

金額:年間の授業料相当額を上限
返済義務:卒業時に一括返還
貸与期間:修業年間を上限 採用人数:若干名



紀元前3000年ごろに建設されていたエジプトのアレクサンドリア図書館は当時世界最高峰であり、文学・数学・天文学・医学などのありとあらゆる文献が集まったという。世界最古の大学といわれるイタリアのボローニャ大学にある図書館も蔵書数は豊富で大学史・図書館史にその名を刻んでいる。

新図書館が完成した。本学学生だけでなく、聖マリアグループ職員や久留米市民の方も利用可能である。

図書館は西洋東洋問わず、時代を超えて存在し、人々に知識と想いを提供してきた。本学の図書館がどんな歴史を紡ぐのか楽しみである。(MT)

編集後記

